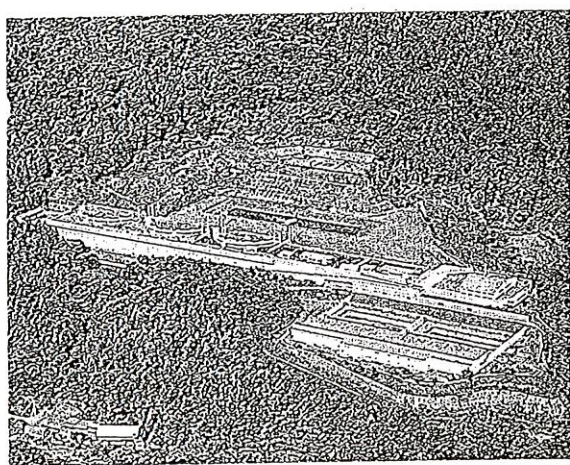


10/22(火) 読売(朝)

長瀬 クレー射撃場跡に「太陽光」



◀ メガソーラーが設置される長瀬射撃場(県提供)

同社の計画によると、太陽光パネルの設置面積は約1万8000平方メートルで、年間発電量は一般住宅約300戸分に相当する約139万キロワット時。2014年10月から運転を始める予定。県は毎年、同社から約510万円の貸付料を受け取る。

同射撃場は鉛弾による土壌汚染で、01年からクレー射撃場としては使わなくなった。04年に県内で開催された国民体育大会で使用するため一時再開したが、09年度までに土地改良費が6億円以上かかった。このほか鉛弾を回収するための施設改修費に45億円以上がかかることなどから、県は今年3月末に閉鎖していた。

県は、鉛弾による土壌汚染で問題となり3月に閉鎖した長瀬射撃場内のクレー射撃場跡地で太陽光発電(メガソーラー)を行うことにし、提案のあった7社の中からさいたま市浦和区の「グッドエネジーSPC長瀬合同会社」を事業者に決定したと発表した。グッドエネジーは全国16か所で太陽光発電を行った実績があるという。

発電事業者決定 鉛弾汚染で閉鎖